計画骨子(素案)

1. 里山とは

（１）里山とは

谷戸や山林に隣接する集落で生活する住民が、自ら田畑を耕作し、農閑期においては薪や炭にする目的で樹木の伐採を行い、雑木林の管理がなされている地域を指します。人の手が適度に入ることで生き物の多様性、良好な景観、伝統文化等が保全・継承され、人と自然が共生し、資源が循環すること等により、持続可能な環境が形成されてきた場所です。

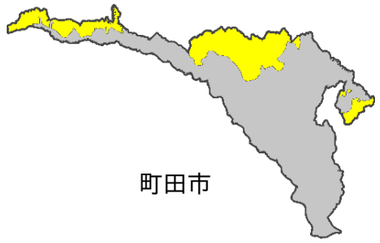
（２）里山の現状

近年、自然環境への意識の高まり等により里山には多くの人が訪れています。一方で、高度経済成長に伴う産業構造や生活様式の変化等によって、それまで続いてきた土地の所有者をはじめとする住民による地域の資源の循環が途切れています。

2. 町田市の里山の現状

（１）位置

対象区域となる町田市の里山は、東京都心から直線距離でおよそ 30～40km、横浜の中心部から直線距離でおよそ 20～40km の位置にあります。町田市の北部にあり、町丁目では、相原町、上小山田町、下小山田町、小野路町、図師町、　野津田町、三輪町の各一部に該当します。



■町田市の里山の位置図(黄色塗)

（２）町田市の里山の特徴

町田市の里山は、都市基盤の整った市街地が間近にある中で豊かな緑に恵まれ、今でも農の環境が維持・継承されており、数多くの歴史・文化の足跡も見ることができます。こうした立地、農、水、歴史、文化はすべて町田市の里山の特徴といえます。

- ○広域的な緑のネットワークの一翼を担う大緑地帯である
- ○大都市直近にあり、多摩丘陵の原風景を色濃く残す希有な地域である
- ○生物の生息・繁殖環境として恵まれた環境が一部に残されている
- ○中世から現代まで、町田市の歴史・文化の足跡が蓄積されている
- ○減少しつつあるものの、現在でも農の環境が維持・継承されている
- ○フットパスの取組や湧水、里山の環境を再生・保全する活動が行われている

（３）これまでの取組

・地域で収穫・生産した農産物の販売
・フットパスの環境整備、活用
・ボランティアや地域の団体による保全活動
・民間事業者によるイベント等

3. 町田市の里山の課題

これまでの取組や市場調査と地域ヒアリングの結果等をふまえ、町田市の里山の課題を以下のように整理しました。

地域の資源の循環が途切れ里山が荒廃した結果、生態系等の変化や景観の悪化のほか、不法投棄も行われるなど**生活環境**も以前と比較し**悪化**しています。また、コロナ禍を経て来訪者が増加しつつありますが、私有地への立ち入りなどもあり、里山の**魅力を適切に発信**するとともに地域住民と来訪者双方にとってよい関係性を構築することが必要です。

町田市の里山で活動するボランティア等の団体はメンバーが高齢化してきており、活動の**担い手**が不足してきています。今後は**民間事業者等とも連携**を進め、様々な活動が行うことができる基盤を整備していくことも重要といえます。

このことから、かつての里山環境を再生するとともに、時代に即した新たな循環サイクルを構築し、将来にわたって里山の環境の保全していくことがこれからの町田市の里山の課題であるといえます。

4. まちだの里山の将来像(案)

町田市の里山の現状と課題、里山環境をめぐる動向等をふまえ、「住む人も訪れる人も居心地のよい　まちだの里山」を将来像とすることを検討しています。

里山環境を**再生**し、その環境・資源を**保全・活用**につなげることで、まちだの里山がそこに**住む人・訪れる人にとって居心地がよく**将来に渡って**持続可能**なものとなることを目指します。

そして、人と自然が共生し、時代に即した新たな資源の循環により、持続可能な環境が形成・維持されることを目指します。

将来像

住む人も訪れる人も居心地のよい　まちだの里山

5. 計画期間

計画の期間は 2022 年４月～2032 年３月（10 年間）とします。

6. 推進体制・スケジュール

各施策を円滑に遂行するため、関連する庁内各課と密に情報交換を行っていきます。また、市民、地域団体など多様な主体と連携・協働しながら各施策を推進していきます。

本計画を推進し５年目に、状況に応じて計画の中間見直しを検討します。

2022年４月～2027年３月					2027年４月～2032年３月
				2026年度	
→	→	→	→	中間見直し（検討）	→

7. 計画の構成(案)

現状と課題、将来像（案）を基に、以下のとおり計画の構成を検討しました。

【現状と課題】

・里山が荒廃した結果、生活環境も以前と比較し悪化している
・山林や農地の再生が求められている

【対応】

里山環境を再生する

・在住者の３割以上の人が貴重な場所ということを知らない
・来訪者は里山に関心はあるが地域の住民・団体の活動をよく知らない
・来訪マナー等の情報が適切に発信できていない
・まちだの里山をＰＲする場がある
・地域の課題が整理・共有されていない
・地域の将来像がみえていない

地域内外の認識や認知度の向上に取り組む

・在住者は北部丘陵以外のエリアの人や団体が参画することについて賛成している人が多い
・子どもも安心して訪れることができる里山であることが求められている
・地域内外の人の交流や回遊を促す場が求められている
・散策の環境の充実が求められている
・現地を訪れたくなるコンテンツを不足している
・活動の担い手の活躍の場や機会の充実が求められている

実際に里山を訪れ・関わる人を増やす

・在住者は里山を将来にわたって残していくことを求めている
・在住者は地産地消の推進など、生産地であることを活かしていけるとよいと考えている
・地域資源を活用して地域おこしやイベント等を実施したい事業者がいる
・市内の事業者が連携して事業を行う具体的なアイディアが出ている

事業者等と連携して里山の環境・資源を活用する

・在住者は不法投棄を抑止し環境を改善していけるよいと感じている
・子どもたちが安心して歩ける環境が求められている
・在住者は地域のコミュニケーションの機会を充実できるとよいと考えている
・来訪者が増加した結果、私有地への立ち入り等が発生している

より一層居心地のよい暮らしを実現する

【計画の構成（案）】

【将来像】 住む人も訪れる人も居心地のよい まちだの里山

基本施策1　まちだの里山を知る

■ねらい・目的（何のための施策なのか）
○多世代の在住者がまちだの里山が貴重な場所ということを知るため
○来訪者が地域の住民・団体の活動を知るため
○広くまちだの里山の魅力を発信するため
○地域の課題を整理・共有するため
○地域の将来像を共有するため

基本施策2　まちだの里山を訪れる

■ねらい・目的（何のための施策なのか）
○実際に訪れてまちだの里山の魅力を体感してもらうため
○市内外の人や団体の活動を受け入れるため
○訪れる人と地域の人・団体が交流するため
○訪れた人の満足度を高めるため

基本施策3　まちだの里山で働く

■ねらい・目的（何のための施策なのか）
○まちだの里山の自然資源を活用した事業を実施する環境を整えるため
○自然体験のニーズに応える事業を実施する環境を整えるため
○民間事業者による事業を受け入れるため
○地域内外の人･団体が持続的に里山環境を活用する基盤を構築するため
○生産地であることを活かし、商売を始める基盤を構築するため

基本施策4　まちだの里山に暮らす

■ねらい・目的（何のための施策なのか）
○地域が活性化し人の目が入ることで不法投棄の抑止など、安全・安心な里山環境を実現するため
○まちだの里山での暮らしの魅力を発信し、移住・定住を促進するため
○まちだの里山での暮らしにあこがれや愛着を抱く人を増やすため

8.（仮称）町田市里山環境活用保全計画の施策体系（イメージ）

将来像

住む人も訪れる人も居心地のよい まちだの里山

基本施策1　まちだの里山を知る

■施策のねらい・目的

○多世代の在住者がまちだの里山が貴重な場所ということを知るため
○来訪者が地域の住民・団体の活動を知るため
○広くまちだの里山の魅力を発信するため
○地域の課題を整理・共有するため
○地域の将来像を共有するため

■施策を推進するための取組のイメージ

視点　市内外の人がまちだの里山を知っているようにする
視点　ロケの誘致などメディアと連携し情報を発信する
視点　地域の課題や将来像を多様な関係者で共有する

基本施策2　まちだの里山を訪れる

■施策のねらい

○実際に訪れてまちだの里山の魅力を体感してもらうため
○市内外の人や団体の活動を受け入れるため
○訪れる人と地域の人・団体が交流するため
○訪れた人の満足度を高めるため

■施策を推進するための取組のイメージ

視点　市内外の人がまちだの里山の魅力を体感する機会を充実する
視点　訪れる人と地域の人・団体が交流する機会を充実する
視点　訪れる人・地域の人双方が満足できる環境づくりを進める

基本施策3　まちだの里山で働く

■施策のねらい

○まちだの里山の自然資源を活用した事業を実施する環境を整えるため
○自然体験のニーズに応える事業を実施する環境を整えるため
○町田市街地の事業者による事業を受け入れるため
○地域内外の人・団体が持続的に里山環境を活用する基盤を構築するため
○生産地であることを活かし、商売を始める基盤を構築するため

■施策を推進するための取組のイメージ

視点　まちだの里山で農業・サービス業等に従事できるようにする
視点　まちだの里山で小商いができるようにする

基本施策4　まちだの里山に暮らす

■施策のねらい

○地域が活性化し人の目が入ることで不法投棄の抑止など、安全・安心な里山環境を実現するため
○まちだの里山での暮らしの魅力を発信し、移住・定住を促進するため
○まちだの里山での暮らしにあこがれや愛着を抱く人を増やすため

■施策を推進するための取組のイメージ

視点　まちだの里山に住み続けたいと思われるようにする
視点　週末はまちだの里山で暮らしたいと思われるようにする
視点　まちだの里山に移住したいと思われるようにする